

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242045

研究課題名(和文) 歴史認識の変容と文化遺産・景観の思想に関する比較研究

研究課題名(英文) Changing historical consciousness and ideas of cultural heritage and landscape -A comparative study

研究代表者

立石 博高(Tateishi, Hirotaka)

東京外国語大学・その他部局等・学長

研究者番号：00137027

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,200,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は、文化遺産・文化的景観をめぐる思想が、19世紀という歴史主義の時代のヨーロッパの文化イデオロギーに立脚したものとして考え、その歴史的生成と発展を捉えることによって、文化遺産概念を批判的に再検討した。文化遺産政策は、過去を空間のなかに表現し、可視化するものであり、こうした制度的な実践は、その空間を体験する人々の歴史意識とは相互に条件付け合っている。

本研究は、近代の学知の制度化、国民主義の発展、記憶の政治に着目して、文化遺産・文化的景観の保全をめぐる思想と、その実践の歴史的個性と歴史的文脈を、ヨーロッパ、イラン、オスマン帝国(トルコ共和国)、そして日本との比較研究を通じて明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project started from an assumption that ideas of cultural heritage and landscape are based on a cultural ideology characteristic the 19th century, an age of historicism in Europe, and critically considered the very notion of cultural heritage. Heritage policy intends to represent and visualize "the past". Its institutional praxes and historical consciousness are mutually dependent each other.

This project analyzed and illuminated historical uniqueness and context of ideas and praxes of cultural heritage in Europe, Iran, Ottoman Empire (later Turkey) and Japan through a comparative study by focusing on institutionalization of modern historical and other related sciences, development of national societies and the politics of memory in the contemporary period.

研究分野：ヨーロッパ近世史・近代史

キーワード：文化遺産 文化的景観 ナショナリズム 記憶の政治 比較史

1. 研究開始当初の背景

啓蒙主義期における諸学問の展開とその豊潤な学術資産を批判的に継承した近代ヨーロッパは、19世紀初、国民・民族の概念とその系譜を国家建設・国民統合の中心イデオロギーに据える新しい歴史認識＝構想を生み出した。従来もっぱら近代学問の誕生等の史学史上の課題として研究・議論されてきたこの歴史認識は、近年では、とくに歴史主義概念の再定義という形で、近代社会それ自体—その思考様式や価値体系—を基礎づける「時代精神」として、より包括的に、そして歴史的個別性の下に理解される傾向にある。

本研究「歴史認識の変容と文化遺産・景観の思想に関する比較研究」では、18・19世紀の交に誕生する上記の歴史認識＝構想を、思想や心性から政治実践、表現形式に至り、政治・社会・文化を貫き、それらを相互に連結する構成力を伴う、一種の歴史主義的文化イデオロギーと定義し、その形成と展開の全容を、比較的視点・学際的方法を駆使し、現地での包括的な史資料調査に基づき解明するものである。文化遺産・景観の保全・改造にかかわる思想と実践を、この歴史主義的文化イデオロギーの生成・発展とのかかわりのなかで、19世紀から現代まで分析することが本研究の課題である。また、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界の実践の比較研究、相互交渉の検討も、本研究の特質をなすものである。文化遺産・景観の問題は、従来もっぱら文化財保護との関わりの中で論じられ、豊かな蓄積があるが、当面する課題が非常に実践的であるために、研究史上、文化財保護の技術論、経営論に重きが置かれる傾向があり、文化遺産・景観という思想と実践そのものを歴史研究の対象とする研究は多くなかった。本研究は、この空隙を埋めようとするものである。

2. 研究の目的

「歴史認識の変容と文化遺産・景観の思想に関する比較研究」は、第一に、近代初期に誕生する歴史主義的文化イデオロギーの成立過程、文化遺産概念の形成と文化遺産保護制度の整備過程を、近代諸学問との依存関係を踏まえつつ考察し、第二に、同イデオロギーによって都市空間が歴史的に再編成される過程、その際の文化遺産配置の実態を、革命暴徒による破壊行動や市民的公共性の表明など、競合する表象意志の相克、意味の争奪として分析する。第三に、全体主義体制下での都市改造を例に、伝統主義的・歴史的都市編成がいかに横領され、また再編されたかを解析し、これを前記第二点と比較する。第四に、文明化の使命に支えられた「オリент」における文化遺産の発掘活動をめぐる異文化間の交渉史を、文化遺産の争奪と都市の歴史主義的改造という観点から分析する。以上の独創的問題意識と史資料横断的な共同研究を通じ、近代・ヨーロッパ・市民社会の本質の究明を目指す。

3. 研究の方法

本研究は、次の各主題に沿って推進される。

(1) 文化遺産・歴史景観をめぐる思想の形成と歴史認識＝構想

フランス、ドイツを先導者とする文化遺産概念の成立と、文化財保護の制度と法の整備の過程を、各国を比較する視点、相互の影響・伝播の観点から明らかにする。その際、上記の歴史認識＝構想との関係を、上記国に加え、オーストリア(A・リーグル)、スペイン、北米を加えて比較的に考察し、文化イデオロギーとしての実態を解明する。

(2) 都市空間における文化遺産の争奪と都市空間の改造・再編

ヨーロッパ近代における都市改造の実態を、文化遺産の配置と歴史景観、その争奪という観点から考察する。また1848年革命、パリ・コミューンなど、「革命の世紀」の暴徒の破

壊行動の経路的・対象物的分析から、都市空間での「意味」の争奪の実態を明らかにする。さらに都市空間における墓地、墓碑、戦没者記念碑（「死」をめぐる記念＝文化遺産）の地誌的・景観的改造の実態とその歴史認識との関係を、競合する記憶や葬送・死生観の変容を踏まえつつ、解明していく。

（３）伝統的・歴史的都市空間編成と全体主義体制下のユートピア的都市改造

革命期ロシア、ナチス期ドイツ、ファシズム期イタリアといった第二次世界大戦期の極端なユートピア主義的都市改造が、いかなる思想のもとに構想され、実践されたかを解明する。その際、伝統主義的都市空間の編成がいかに継承され、あるいは破壊されたのか、また都市設計における文化遺産が果たした役割を解明する。

（４）「文明化の使命」思想と「オリエント」における文化遺産の考古学的発掘

上に指摘した問題群を、発掘国（フランス、ドイツ）と特に「オリエント」の被発掘国（イラン、トルコ等）との交渉史的観点から考察する。その際、第一線の中東史研究者を研究分担者に迎え、ヨーロッパ史研究の成果と対照させながら、交渉の実態を史料に即して明らかにする。また、コロニアリズムの問題や「ヨーロッパ」概念の対抗的概念としての「オリエント」概念の内実とその変化という観点も十分に顧慮する。

４．研究成果

本研究プロジェクトは、期間内に以下の国際会議を開催し、研究成果の公開、および国際的な研究協力体制の構築を行ってきた。

H24 年度

International conference on cultural heritage and identity formation, Islamic Azad University, Shiraz, Iran.

H25 年度

Heritage policy in the historical perspective in Europe, the Middle East and Japan, International cultural Centre, Krakow, Poland.

H26 年度

Cultural heritage in danger: From Turkish

and Japanese experiences, Turkish Cultural Foundation, Istanbul.

文化イデオロギーとしての歴史認識＝構想は、第一に、王政復古期の復古主義的風潮のなかで王朝的継続性を物理的・視覚的に保証する文物・建築物を、歴史的な文化遺産と見なす心性・態度を涵養した。その心性から、ロマン主義の普及とともに、民族の起源としての中世、人類文明の淵源としての古典古代、ひいては非ヨーロッパ世界の世界文明にまで関心が広がった。市民的公共性と市民の政治参加を基本とする市民社会の形成と軌を一にするこの現象は、遺物・遺跡を国民・民族の代替不能な文化遺産として保護・管理する社会制度と法の整備（文化遺産保護局、文化遺産保護法等）を促進した。同時に、文化遺産の認定には、大学アカデミズム・講座制という制度的保証と史料批判という実証技術を装備した歴史学・人類学・民族学との、また文化遺産の発掘・保全には考古学との、つまり未だ揺籃期にあった近代諸学知との連携が不可欠であった。認定された文化遺産は、その価値を記述する国民＝民族史的歴史叙述や、その視覚表現たる歴史画・歴史彫像の制作・展示といった政治芸術を伴い、国民統合を目的とした種々の国家的儀典を演出する舞台装置として利用されていく。国際文化センター（クラクフ）で行われた国際会議は、この時期の問題を扱い、歴史主義の極端な形態としての「純粹主義」、およびアロイス・リーグルに代表される近代の文化遺産保全思想と、モダニズムとの関係を主題として扱った。

一方で、産業革命による工業化の進展や産業構造の転換、これに起因する多様な社会問題のために、伝統的都市空間の大規模な破壊を伴う改造が進捗する過程で、上記の文化遺産は、国家的威信や都市の「記憶の場」を表象する遺物として、都市内に新たな「場」を与えられ、「記憶の核」を形成していく。文化遺産が各所に配置され、それらが紡ぎ出す

歴史的脈絡を付与された、都市の新しい空間構成＝景観（歴史的景観）は、一方で、国家による威信顕示、市民的公共性の表現となる一方、革命暴徒による破壊の対象となるなど、ヴェクトルの異なる政治意志の表現が相克する、記憶と歴史の争奪の現場となった。この問題は、第一次世界大戦後に成立した諸国民国家（トルコ共和国も含む）でもっとも端的に表出した。

さらに 20 世紀の第 2 四半期に現れた全体主義的政治体制は、19 世紀的都市改造の経験を継承しつつも、極端にユートピア的な都市の改造を、短期間かつ暴力的とも言える破壊性をもって遂行した。過去に権威の典拠を求める伝統主義的空間編成はこの過程で、創出すべき社会・国家の未来像を呈示する都市空間へと再編される。敗戦による体制崩壊によって頓挫した、これら反近代的で実験的な都市改造の実態を文化遺産と記憶の領有という観点から分析し、これを近代の都市空間編成と比較することは、市民社会、ヨーロッパの文明の本質の理解にとって重要な参照点を与えてくれるだろう。国際文化センターにおける会議は、第二次世界大戦、ナチ・ドイツの人種主義的社会改造の結果もたらされた破壊が、現代の文化的景観のなかにいかに想起されるかという問題、具体的には、絶滅政策後の「相続者なき文化遺産」の問題を扱った。

近代市民社会の諸勢力による「意味」の争奪の対象となった文化遺産と、それらを文脈化・視覚化する都市の歴史的景観は、国家を担う「国民」意識を涵養し、国民統合の政治技術として内国的に作用した。同時に、覇権主義的国家による海外植民地の形成過程のなかで、その行動を正当化する文明化の使命という歴史認識＝構想をも育んだ。イギリスはもとより、帝政下のフランスやドイツ、ロシアによる世界文明の発掘遠征は、宣教と文明化の使命を自覚する考古学者とその発掘

チームによって担われ、掘り出された遺物・遺構（文化遺産）は現地政府との契約に従って現地から持ち出され、本国の博物館・美術館に収集された。博物館や博覧会に展示される世界文明の一群の文化遺産は、本国国民を文明的優越意識、さらなる文明化の使命感、そして帝国主義への心情的容認へと誘導する一方、現地国での自国文化遺産についての自覚と新たな歴史認識の醸成をも促した。ここに、文化遺産とその発掘をめぐる異文化間での「意味」の争奪が生じるとともに、現地国での文化遺産を核とする新しい都市空間＝歴史景観の形成が進むことになる。イスラム自由大学（シーラズ）、およびトルコ文化財団（イスタンブール）における会議は、この問題を集中的に扱った。とりわけ、文化遺産の発掘・移転をめぐるヨーロッパ各国と非ヨーロッパ世界との交渉史は、歴史認識の相克から、非ヨーロッパ世界における「新たな歴史景観」の創出に至る過程を具体的に映し立つものとして、再検討が加えられた。この問題は、明治維新以後の日本の文化財概念の生成過程と比較しうる。鞆の浦の中世の港湾遺構、五島列島におけるキリスト教関係文化遺産の調査は、文化遺産概念と在地の生活誌との相克を問題として焦点化し、歴史的概念としての「文化遺産」の批判的継承に新たな視野を開くことになった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

千葉敏之「ジャック・ルゴフの銀河系」『思想』1083 号、2014 年、139-143 頁、査読なし

吉田ゆり子「『簞』——周縁化された芸能者と地域社会」『思想』1084 号、2014 年、64-81 頁、査読なし

相馬保夫「離散と抵抗：ズデーテン・ドイツ社会民主党亡命組織（15）」『東京外国

語大学論集』89号、2014年、195-215頁、
査読なし

金井光太郎「安武秀岳『自由の帝国と奴隷制』——南部プランター階級のヘゲモニーとアメリカのデモクラシー」『アメリカ史評論』30号、2013年、30-38頁、査読なし

工藤光一「噂と政治的想像界——ルイ18世治下におけるナポレオンに関する噂：シャンパーニュ地方オープン研を中心に」『Quadrante』15号、2013年、135-152頁、査読あり。

立石博高，“Pedro Rodríguez de Campomanes y la formación del Diccionario geográfico-histórico de España”, 『Mediterranean World = 地中海論集』, XXI, 2012, 1-18, 査読なし

八尾師誠「百科事典『ダーネシュ・ゴスタル』の出版と日本認識の広がり」『イスラム世界』78号、2012年、46-53頁、査読あり

工藤光一「19世紀フランス農村世界における噂のダイナミクス」『Quadrante』14号、2012年、59-79頁、査読あり

臼杵陽，“A Japanese Asianist's View of Islam: A Case Study of Okawa Shumei,” 『日本中東学会年報(AJAMES)』28-1号、2012年、59-84頁

〔学会発表〕(計31件)

篠原琢，“Cultural Heritage and German Historiography in Bohemia in the 19th century,” 本研究課題主催国際会議「Heritage Policy in the Historical Perspective in Europe, the Middle East and Japan」, 2013年9月5日, International Cultural Centre, Krakow (Poland)

吉田ゆり子，“Early Modern Japanese Urban Planning in Comparative Perspective,” 国際会議「Heritage Policy in the Historical Perspective in Europe, the Middle East and Japan」, 2013年9月5日, International Cultural Centre, Krakow (Poland)

工藤晶人，“Le droit foncier dans l'Algérie du XIXe siècle: discours juridiques et pratiques administratives” Centre d'histoire sociale du XXe siècle, séminaire “Pour une histoire sociale de l'Algérie colonisée” (招待講演), 2013年10月16日, Centre d'histoire sociale du XXe siècle, Paris

新井政美，“Osmanlı'dan Miras Kalmis Bazi Meseler,” Yabancı Tarihçilerin Gözüyle 90. Yılında Cumhuriyet (主催:トルコ歴史協会、招待講演), 2013年10月30日、チュラアン・ホテル(イスタンブール)

篠原琢，“Heritage without Heir: Jewish Heritage in Eastern Europe after the Second World War,” 「International Conference on Cultural Heritage and Identity Formation, 2012年9月5日, Islamic Azad University, Shiraz (Iran)

千葉敏之，“Replicated Jerusalem: Architectural Copies of Holy Sepulchre in Medieval Europe,” International Conference on Cultural Heritage and Identity Formation, 2012年9月5日, Islamic Azad University, Shiraz (Iran)

金井光太郎，“Construction of the National Origin to Confirm the National Character: Sanctifying of Plymouth Rock and the Creation of Puritan Image of the American Nation,” International Conference on Cultural Heritage and Identity Formation, 2012年9月5日, Islamic Azad University, Shiraz (Iran)

臼杵陽，“The Political Dispossession of Cultural Heritage in the Occupied Palestine: A Case of Mawsim al-Nabi Musa (Festival for Prophet Moses) in Jerusalem,” International Conference on Cultural Heritage and Identity Formation, 2012年9月5日, Islamic Azad University, Shiraz (Iran)

工藤晶人「仏領植民地期北アフリカにおける歴史認識構築とネーション」本研究課題主催研究会、2011年6月18日、東京

〔図書〕(計52件)

立石博高(ほか9名著)『概説 近代スペイン文化史』ミネルヴァ書房、2015年刊行予定、360頁

近藤和彦編(千葉敏之ほか著)『ヨーロッパ史講義』山川出版社、2015年刊行予定、247頁(千葉「寓意の思考——魚から見た中世ヨーロッパ」頁数未定)

吉田ゆり子・八尾師誠・千葉敏之編(立石博高、吉田ゆり子、八尾師誠、篠原琢、千葉敏之、金井光太郎、相馬保夫ほか13名著)『画像史料論——世界史の読み方』東京外国語大学出版会、2014年、326頁

木村靖二・千葉敏之・西山暁義編(千葉

敏之、相馬保夫ほか 10 名著)『ドイツ史研究入門』、山川出版社、2014 年、479 頁

小杉泰・林佳世子編『イスラーム 書物の歴史』、名古屋大学出版会、2014 年、453 頁

池田嘉郎編(池田嘉郎ほか 8 名著)『第一次世界大戦と帝国の遺産』山川出版社、2014 年、296 頁

Nathalie Clayer, Erdal Kaynar (eds.) (新井政美ほか 28 名著), 『Penser, agir et vivre dans l'Empire ottoman et en Turquie: Etudes reunies pour Francois Georgeon』, Louvain: Peeters, 2013, 542 (新井, "Citizen, Liberty and Equality in Late Ottoman Discourse," 3-14)

工藤晶人『地中海帝国の片影——フランス領アルジェリアの 19 世紀』東京大学出版会、2013 年、448 頁

篠原琢・中澤達哉編『ハプスブルク帝国政治文化史——継承される正統性』昭和堂、2012 年、241 頁

北村暁夫・伊藤武編著『近代イタリアの歴史——16 世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2012 年、284 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

立石 博高 (TATEISHI, Hirotaka)
東京外国語大学・その他部局等・学長
研究者番号: 00137027

(2) 研究分担者

北村 暁夫 (KITAMURA, Akeo)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号: 00186264

八尾師 誠 (HACHIOSHI, Makoto)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 20172926

篠原 琢 (SHINOHARA, Taku)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 20251564

千葉 敏之 (CHIBA, Toshiyuki)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 20251564

林 佳世子 (HAYASHI, Kayoko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 30208615

吉田 ゆり子 (YOSHIDA, Yuriko)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 50196888

金井 光太郎 (KANAI, Kotaro)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 40143523

新井 政美 (ARAI, Masami)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 60167989

池田 嘉郎 (IKEDA, Yoshiro)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号: 80449420

相馬 保夫 (SOMA, Yasuo)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 90206673

工藤 光一 (KUDO, Koichi)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 80255950

臼杵 陽 (USUKI, Akira)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号: 40203525

工藤 晶人 (KUDO, Akihito)
学習院女子大学・国際文化交流学部・講師
研究者番号: 40513156

(3) 連携研究者

()

研究者番号: